

日体大だまししい

日本体育大学
東京都同窓会
報
第12号
平成26年3月1日発行
発行者 東京都同窓会長

回想 エールを送る

副会長

昭和三十一年卒

荒川御幸

ていただければ、氏の頂点を極めた生の声を拝聴し、国際体操に関心のある卒業生たちも世界の動きを知る良い機会となったと思う。

昭和二十七年、私は日本体育大学に願書を取りに行き、どこに学校があるのかと、今のバス通りから本館の方を眺めると二本の石柱（門柱）が立っているだけであった。校舎と

思われる建物はなくゆるい傾斜の坂道がありその側に木造の建物があった。教室と事務室がありそこで願書を受け取ったことを思い出す。この学舎は、雨風が吹き込む教室だった。夏休みが終わり学校に戻ると最初にやるべきことは草刈りで、特に一年生は汗を流したものだ。戦争が終わって間もない時期でもあり、まだ、日本体育大学は最高学府と呼ばない建物と施設だった。現在の世田谷キャンパスの威容は、その当時から想像がで

きないほどである。バス通りから本館に向かい眺めると、私が入学したころのことを思い出し涙があふれる気持ちを禁じ得ない。同時に、現在の素晴らしい学舎に感動する。現在の学生たちがここで学んでいるのかと思うと胸に迫るものがある。施設・設備そして指導陣の充実など整備されているが、考え方として日本の体育・スポーツ界を牽引していく立場で何を指すのか、学長をはじめ、教授や学ぶ学生たちがそれを公開し実行する力が求められる。

東京都同窓会の活動も軌道にのりだして母校に対し発言提言できるようになってきた。しかしながら、同窓生に迅速で新しい情報を伝えることを検討すべきである。昨年四月八日、本学で国際体操連盟(IIG)会長のブルーノ・グランディ氏へ日本体育大学名誉博士号授与式が行われた。このことを、東京同窓会が東京都在住のOB・OGに広報し

団結、前進！前進！

ためらうことなく突っ走れ
額を挙げて獅子奮迅する
若人の意気高揚の姿
そこを要として

日本体育大学！

《大学からのお知らせ》

後輩が頑張っています

ソチ オリンピック出場七名の学生がいる。二月三日世田谷キャンパスで壮行会が開催されました。

出場選手紹介

- ・女子ホッケー近藤洋子選手(卒)
- ・スピードスケート(男子・女子) 上條有司選手(卒)
- ・藤村祥子選手(卒)
- ・スピードスケート(ショート・トラック)坂爪亮介選手
- ・ハーフパイプ(男子) 青野玲選手(一年生)
- ・子出藤歩夢選手(一年生)
- ・パラリンピック 男子アルペンスキー 小池岳太選手

情報発信

同選手は、一年次サッカーで左腕を負傷し、その後スキーに転じた。

※ソチオリンピック情報は日体大ホームページをご覧ください。

学生支援センターキャリア

支援部門の取り組み

教員・公務員・企業への就職など、学生一人ひとりの希望と適性を把握して、将来が確かで明るいものになるよう、進路が決定するまで親身にサポートしています。

昨年の就職活動に向けた開催実績から

- ☆ 四月・五月には教員採用試験・公務員試験の模擬試験を実施している。
 - ☆ 教員宿泊勉強会合の計画がある。
 - ☆ 大学連携合同就職説明会等
- 今後、計画されるものの一部を紹介しました。

《保護者会からのお知らせ》

東京都保護者会会員(約二〇〇名)は竹内会長を中心に、六月に東京都保護者定期総会を予定しています。

保護者会幹事会・役員会は定例で毎月実施、年数回保護者会主催の進路説明会を開催しています。

《東京都同窓会からのお知らせ》

定期総会

昨年は、七月十三日(土) 一五:〇〇より日本体育大学にて開催しました。

今年の定期総会も七月中旬を予定しています。詳細については、追ってご連絡します

平成二六年度教員採用選考試験対策講座

- ☆ 実施計画日 六月七日(土)、一四日(土)、二二日(日)
- ☆ 開催時間 二九日(日) 計四回 午前一〇時〜午後四時
- ☆ 講座内容 東京都教員採用試験問題等
- ☆ 申し込み締切日 五月一日(木)
- ☆ 申込先 学生支援センター FAX 〇三・五七〇六・〇九八三
- ☆ 講師 東京都(中・高)管理職経験者
- ☆ その他 詳細は後日東京都同窓会から送付します。また、問い合わせは学生支援センターへお願いします。

水道橋博士がかたる

はかせのはなし

東京都が制作する「広報東京」の内容に本学が取り上げられていた。六年後に迫る東京五輪に向け、本物の世界記録を目指す若者を育成する伝統あるスポーツ校に番組のロケで訪問した。

体育大学の集団行動は動画サイトで世界中から六四〇万回以上閲覧され、集団がまる

で万華鏡のビーズのごとく幾何学模様や陣形を幾重にも変化させる早業やムクドリ群飛やイワシの群遊の集団が自由に伸び縮みしていく様など、目を疑うような訓練の賜物はまさに驚異の一語である。

世田谷キャンパス、横浜健志台のキャンパスと合わせると約六、〇〇〇名の学生が学んでいる。日体大の八割は体育系の部活やサークルに所属し、朝九時から午後四時までの授業の後、夜九時まで部活の時間である。

昨年は二七チームが全国大会優勝の名門揃い。さらに、日体大関係者でこれまでに獲得したメダル数は、計一八個これは日本のメダル数の四分の一である。アスリート育成のためのさまざまな機能的な施設の中でも最も印象的だったのは、一秒間に二二〇コマ撮影できるハイスピードカメラでフォームを徹底的に調べ、競技者の体型や動きの分析のための最新機器が備わりスポーツ医・科学の両面で研究が行われていることが述べられていた。博士曰く、昨年の一二月、他の番組収録で運動に興じてみたが集団で動きを合わせる困難さを身を持って実感した。それを、難なくこなしている日体大の学生は「すごい！」の一言であった。

三冊目



東京都同窓会広報誌「日体大だまししい」の編集は、これまで担当の副会長が一人で行ってきました。これからは、記事の収集や編集などを委員会の形で行っていきたくと考えています。同窓会の本部からは予算もいただき、本格的に記事を集め、編集し、発行していきたいと考えています。主旨に賛同し、お手伝いいただける方を募集します。詳細は次号に掲載します。